

①サービス介助士研修プログラム（公益財団法人日本ケアフィット共育機構）

項目	概要
プログラム構成	<p>構成</p> <p>①サービス介助士</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅学習（テキストでの学習、テスト（課題提出）） ・実技研修（コミュニケーションを中心とした2日間の研修） ・検定試験（70点以上で合格） <p>②サービス介助基礎検定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技体験がメインの検定 ・2時間（座学+実技体験+検定）
体験コンテンツ	<p>2日間の研修は、体験型コンテンツが中心となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験（体験セットの装着による街歩き、食事をする） ・障害者の介助方法（車椅子、片まひ、聴覚障害、視覚障害） ・身体障害者補助犬についてのDVD視聴 ・点字の読み方、書き方 ・手話及び聴覚障害者へのコミュニケーション方法 ・実技チェック ・ロールプレイによる実技研修のまとめ
プログラム検討にあたっての考慮事項	<p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どなたでも（個人・企業・自治体・団体・学生） ・受講者には障害のある方も受講している。 ・経営者から一般職員まで（研修を分ける場合もあれば、役職者と一般職員が混じって研修を実施する場合もある） <p>当事者参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参画したその人のイメージが、その障害の固定概念となってしまう恐れがあるため講師としての登壇はないが、映像で障害当事者のインタビュー・生活の紹介がある。 ・資格取得後にボランティアとして当事者に接する機会がある。 ・オプション研修として、当事者との体験イベント等を開催している。 <p>運用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師は自社内で育成。半年～1年で育成している。講師マニュアルとして講和内容をシナリオとしたが、「自分の言葉」で伝えなければ伝わらないため、撤廃した。 ・事前学習と研修をセットとすることで、研修はコミュニケーションの取り方を中心とした実技を集中して実施している。 ・オプションとしての試験対策講座等はWeb配信を実施している。 ・フォローアップ講座の実施でPDCAを促している。

②交通サポートマネージャー研修（公益社団法人交通エコロジーモビリティー財団）

項目	概要
プログラム構成	<p>構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座学と実技を交えたプログラム（2日） ・入門、中級、上級のプログラムを開催。基礎編に中級レベルの「交通サポートマネージャー」研修が位置付けられている。 <p>受講希望者 接遇・応対の基本スキルを習得したい！</p> <p>入门レベル：ユニバーサルマナー公共交通プログラム 人の移動に関する際の心構えを1日の講義で習得！ 集合研修1日・定期開催 力試し Web版 いつでも気軽にWeb受験！基礎知識を力試し！ 無料で随時、受験可能！ 主催：日本ユニバーサルマナー協会</p> <p>中級レベル：交通サポートマネージャー 旧：BEST研修（基礎編） 人の移動に関する際の基礎スキルを習得さらに自身の気づきの心を磨く！ 集合研修2日・定期開催 フォローアップ 交通サポートマネージャーから取得いただいた方も、フォローアップとして、ユニバーサルマナー公共交通プログラムを受講いただく事が可能です。 スキルアップ</p> <p>上級レベル：上級交通サポートマネージャー 旧：BESTトレーナー研修 研修等の人材育成の活動を企画運営し、講師を担うことができるスキルを取得！ 集合研修1日・定期開催 スキルアップ</p>
体験コンテンツ	<p>座学と合わせて、以下のコンテンツが実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション（障害当事者講師とのコミュニケーション） ・実技演習（実際の場面を想定した実習、実車を用いるなど） ・手話の体験 ・気づきのトレーニング（グループディスカッションによる意見交換）
プログラム検討にあたっての考慮事項	<p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者の現場職員（直接お客様に接するドライバーや係員の方、現場責任者等） <p>当事者参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技演習、グループディスカッションにおいて、当事者を講師として登用している。 ・グループディスカッションにより、障害当事者との意見交換の中で、コミュニケーションが図られる。 <p>運用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者の講師登用 ・入門レベルのユニバーサルマナー公共交通プログラムについては、Web版を無料で受験可能とし、集合研修1日を加えて、合格している。 ・入門、中級、上級プログラムの実施でPDCAを促している。

・交通サポートマネージャー研修プログラム例

さまざまな障害を対象として、講義と実技演習、グループディスカッションにより構成される2日間の研修プログラムです。

【対象とする障害】

車椅子・肢体不自由者・視覚障害・聴覚障害・精神障害・内部障害・難病・知的障害・発達障害・高齢者・ベビーカーなど

内 容		
午 前	オリエンテーション	2日間の研修内容やスケジュールを説明します。
	バリアフリー法と接遇・介助の必要性 (30分)	バリアフリーに関する法制度や取り組みの最新事例、接遇・介助の必要性や心構えを学びます。
	グループディスカッション(40分)	グループごとにディスカッションを行い、障害当事者講師とのコミュニケーションを図ります。
	障害の理解とコミュニケーションの基本 (60分)	障害の全般について理解を深めるとともに、コミュニケーションの基本について学びます。
1 日 目	障害のあるお客さまの日常生活と移動① (40分) 【車いす、肢体不自由など】	車いす使用者の当事者が講師となり、日常生活の困難な点や移動・介助のニーズについて学びます。
	接遇・介助方法の修得・実技演習①(60分) 【車いす】通路、段差等を利用し、介助する側・される側の体験	実際の場面を想定した実習を通して、車いす使用者のお客さまに対する接遇・介助方法の基本を学びます。 ※時間ががあれば、実際の公共交通機関を利用した実技演習を行います。
	障害のあるお客さまの日常生活と移動② (60分) 【聴覚障害】基本的な手話や筆談といったコミュニケーション方法	聴覚障害者の日常生活の困難な点や移動・介助のニーズを学び、コミュニケーション手段としての手話などを体験します。
2 日 目	グループディスカッション(40分)	グループごとにディスカッションを行い、障害当事者講師とのコミュニケーションを図ります。
	障害のあるお客さまの日常生活と移動③ (60分) 【知的障害、精神障害、発達障害、内部障害、難病、高齢者など】	さまざまな障害のある当事者が講師となり、日常生活の困難な点や移動・介助のニーズについて学びます。

内 容	
午後	障害のあるお客さまの日常生活と移動④ (30分) 【視覚障害】
	接遇・介助方法の修得・実技演習②（70分） 【視覚障害】通路、階段等を利用し、誘導する側・される側の体験
	気づきのトレーニング（120分）

※このプログラムは一例であり、実際の研修時には各コマの配分時間が変わることあります。

③障害平等研修 (DET Forum (NPO 法人障害平等研修フォーラム))

項目		概要
プログラム構成	構成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会モデルの視点の獲得 (1.5 時間) ・合理的配慮のため同型性 (1.5 時間)
	体験 コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者との対話 ・視覚教材 ・グループワーク
プログラム検討にあたっての考慮事項	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、団体
	当事者参画	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者のファシリテーター登用 ・ファシリテーター養成講座を実施
	運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式での研修

ミッション
Mission

障害平等研修は1990年代後半から英国で障害者差別禁止法の推進のための研修として発展しました。DETフォーラムは2005年に任意団体として形成され、主に途上国での障害平等研修の推進に関わってきました。2014年から日本国内での推進に向け本格的な取り組みを始めました。

世界的な流れを見ると、2006年に障害者権利条約が採択され、「障害」は個人ではなく社会の側にあり、「障害者の権利と尊厳を保障する」という考え方方が世界に広まりつつあります。日本でも、2013年6月に障害者差別解消法が成立し、2016年4月に施行されることとなりました。

こうした動きを背景に、日本を含む世界では「社会にある障害を取り除くこと」がまさに求められています。その新しい規範を理解し実行するための手段であるDETを通して障害者の社会参加を推進することがDETフォーラムのミッションです。

What is “DET”?

障害平等研修(Disability Equality Training:DET)とは、
障害者自身がファシリテーター(進行役)となって進める対話型の障害学習です。

自治体や企業などの組織を対象に発見型学習という対話に基づく方法を用い障害者を排除しないインクルーシブな組織づくりを参加者と一緒に考えていく研修です。

Merit

障害者差別解消法が成立し、自治体や企業において障害者差別を解消していくための取り組みが期待されています。DETは具体的に職員の意識を変えることで、その取り組みを円滑に推進していくための研修です。

Feature

1 ファシリテーターとの対話、視覚教材とグループワークを活用したワークショップです。

2 障害当事者がファシリテーターを担います。

3 「障害は障害者が努力して解決するべき」から「障害は周りの環境をみんなで変えていくことで解決していく」という意識の変革をもたらします。

顧客の拡大

障害者を差別しないサービスの提供により
が期待されます。

誰もが働きやすい環境を整備

障害者雇用を進めて
することができます。

④あいサポーター研修（鳥取県・鳥取県立福祉人材研修センター）

項目	概要
構成	<ul style="list-style-type: none"> 「あいサポート運動」について：あいサポート運動の目的、趣旨等についての説明（約 15 分）⇒研修資料に基づく 障害についての理解：様々な障害の特性、日常生活で困っていること、その時に必要な配慮（DVD 視聴、ミニパンフレット）（50 分） 簡単な手話講座：日常生活で使用できる簡単な手話の紹介（手話チラシ）（約 10 分）
プログラム構成	<p>体験コンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害についての理解の DVD には、動画で当事者の特性やニーズを紹介している。（youtube で 14 のチャプターに分けて動画が制作されている。1 話は 1～5 分程度） <ul style="list-style-type: none"> オープニング 視覚障がいについて 聴覚・言語障がいについて～ろうあ、難聴・中途失聴、言語障がい～ 盲ろう 肢体不自由 内部障がい 重症心身障がい 知的障がい 自閉症・発達障がい 精神障がい 依存症 てんかん 高次脳機能障がい ハートフル駐車場 エンディング～あいサポート運動とは～  <p>Youtube より</p>
プログラム検討にあたっての考慮事項	<p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修受講者を「あいサポーター（障害者サポーター）」と呼び、バッジを身につけていただき、自分ができる範囲で活動をしてもらうものとしている。 企業や団体を対象とし、「あいサポート企業」として認定している。 <p>当事者参画</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画には、当事者の特性紹介やニーズが紹介されている。 <p>運用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講希望企業・団体による申し込み ⇒ 研修の実施 ⇒ 「あいサポーター」「あいサポート企業」としての認定 研修資料、DVD 動画、パンフレット等については、ポータルサイトにアクセスすれば、誰でも入手可能となっている。 ステップアップのための「あいサポート運動ステップアップ DVD」もポータルサイトで視聴できる。

あいサポート運動の概要

あいサポートー

障がいについて、①「その内容や特性」、②「障がいのある方が日常生活で困っていること」、③「ちょっとした手助けや配慮の方法」の三つを知ってもらい、実践していただき方。多様な障がいの特性、困っていること、必要な配慮などを理解し、障がいのある方にちょっとした手助けをする意欲がある方であれば誰でも可

あいサポートー研修の実施

地域や学校、職域などの研修において、
出前研修「あいサポートー研修」を実施

あいサポートーメッセンジャー

自主企画で「あいサポートー研修」を行
う一般ボランティア講師

平成26年度人権啓発資料法務大臣表彰において、
公益財団法人 人権教育啓発推進センター
特別賞(映像作品)を受賞 ※鳥取県として初受賞



「あいサポートー企業・団体」 認定制度

従業員等を対象とした「あいサポートー研修」等に取り組む企業・団体を
「あいサポートー企業・団体」として認定
H22年1月創設



H23年3月作成



H28年3月作成

サポートー宣言

- わたしたちは、多様な障がいの特性を理解し、
お互いが分かり合えるように努めます。
- わたしたちは、日常生活で障がいのある方が困っている場面を見かけたら、声をかけ、手助けを行います。
- わたしたちは、「あいサポートー」バッジを身につけ、
気軽に声をかけやすい環境をつくります。
- わたしたちは、「あいサポートー」の仲間の輪を広げ、
共に生きるよろこびを伝えます。

あいサポートー研修の内容(約75分)

- ★ あいサポート運動について(15分)
- ★ 障がいについて理解しましよう(DVD視聴(50分))
 - 12の障がいについて
 - ① その内容、特性
 - ② 障がいのある人が日常生活で困っていること
 - ③ ちょっとした手助けや配慮の方法を紹介
 - 県内19団体に協力いただき作成
- ★ 簡単な手話:「日常で使う簡単な手話を学ぶ(10分)」

あいサポートー研修用

4

あいサポート運動の取組と広がり

『障がいを知り、共に生きる』～共生社会実現の願いをバッジに込めて発信～



あいサポートー数: 332,933 人 / あいサポートー研修実施回数: 3,727回

あいサポートー企業・団体認定数: 1,218企業・団体 (平成28年9月末現在)



鳥取県ホームページより

⑤明日チャレアカデミー（日本財団パラリンピックサポートセンター）

項目	概要
プログラム構成	<p>構成</p> <p>パラスポーツを事例にするという切り口で、以下の構成の講習プログラムを展開している。(明日から何ができるのか？=明日チャレ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害理解の基礎講座（30分）：「障害とはなにか」を学ぶことで、これまでの固定概念にとらわれない、「障害」に対する新たな気づきにつなげる。 ・体験型プログラム（40分）：障害別に具体的なコミュニケーション方法を学び、体験することで知識だけでなく、実践的な理解を深める。 ・グループワークによる実践演習（30分）：上記2つのプログラムで学んだことを活かし、グループで実践演習問題に取り組み、コミュニケーションに必要な想像力を養う。
	<p>体験コンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムとして、筆談体験などを検討している。(手話はハードルが高いが、筆談であれば、とっつきやすい。ただし、必要なことを要約して書くのは難しい。) ・グループワークは、困っているシチュエーションなどのテーマを与えて、グループで議論してもらう。
プログラム検討にあたつての考慮事項	<p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人、企業、団体 <p>当事者参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師はすべて障害当事者 ・基本のプログラムと理念は根幹とし、それぞれの当事者講師が自分の体験をもとにプログラムを進めている。⇒根幹（受講者へのメッセージ）は講師間で統一していくことが重要。 <p>運用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ユニバーサルマナー協会が運営している。（講師派遣も含め） ・ツールとして、持って帰って振り返りに活用できるポケットブック、講師中にメモなどをとるワークシートを準備している。 ・パラリンピックの迫力を伝える映像を用意している。 ・当該プログラムが取っつきにくいという方に対するプログラムとして、パラスポーツ運動会やパラ駅伝など体を動かしながら理解するイベントを準備している。 ・その他にパラサポ新聞、ゴールボールアプリなどを展開して、興味を持ってもらうための様々な取組みをしている。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気づく」ということから始めともらうことを念頭においている。 ・障害の多様性を当事者講師が実体験から話すことで、気づいてもらう。言葉よりも感じてもらうことを重要視している。 ・パラスポーツを切り口とすることで、心のバリアフリーを考える「入口」となる講習となっている。

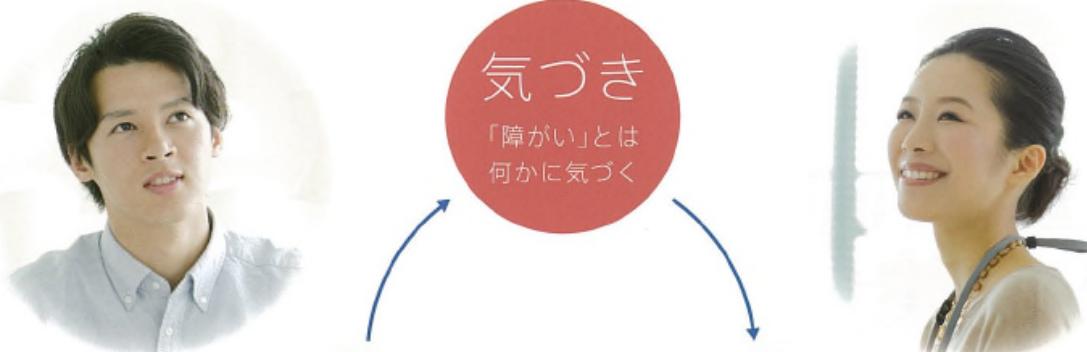
カリキュラム

気づき・理解・行動で、明日からの
コミュニケーションを豊かにします。

あすチャレ! Academyのカリキュラムでは、気づき・理解・行動、この3つのテーマにそって、
インクルーシブコミュニケーションの基本を学びます。
当事者講師による障がい理解の基礎講義、障がい別のコミュニケーション体験、
受講者同士で考えるグループワークを通して、
知識を学ぶだけでなく実際の行動へ移せるように構成されています。
なお、本カリキュラムは、バラスポーツを事例として取り入れているのが特徴です。

障がい理解の基礎講義 30分

「障がい」とは何かを学ぶことで、これまでの固定観念にとらわれない、「障がい」に対する新たな気づきにつなげます。



グループワーク 30分

気づき・理解で学んだことを活かし、グループで実践演習問題に取り組み、コミュニケーションに必要な想像力を養います。

体験型プログラム 40分

障がい別に具体的なコミュニケーション方法を学び、体験することで、知識だけでなく実践的な理解を深めます。

受講後には、修了証書をお渡しします。



⑥ユニバーサルマナー検定（日本ユニバーサルマナー協会）

項目	概要
プログラム構成	<p>構成</p> <p>3級：座学(基礎的知識、向き合い方や声掛けの方法等 75分)、グループワーク(45分)の受講により全員認定 2級：座学・グループワーク(多様な方々の特徴と心理、知的・精神障害者のサポート方法等 70分)、実技研修(車椅子利用者、視覚障害者、聴覚障害者、高齢者のサポート方法 150分)の受講の後、検定試験(30分)</p>
体験コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワーク(具体的なシチュエーション(ハード/ソフト両面)を示し、対応方法についてディスカッション) ○実技研修(企業で受講する場合には、企業の特徴に合わせてカスタマイズ)
プログラム検討にあたつての考慮事項	<p>対象</p> <p>一般、企業、団体</p> <p>当事者参画</p> <p>講師陣は全て障害当事者</p> <p>運用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業に対しては、当該検定を受講することで、企業としての姿勢が社会的な価値となり、企業のブランディングにプラスとなることを伝えている。 ○現場のヒアリングを行い、受講企業に対するカスタマイズを行い、ニーズに合った講習を実施している。 ○受講後のアンケートは、講習内容にフィードバックしている。 ○講師陣の育成に力を入れている。育成担当を設け、徹底的な育成指導を実施している。 ○障害者への「向き合い方」に特化した講習内容

⑦リオデジャネイロパラリンピックのスタッフ・ボランティアに向けた研修プログラム
 (出所：組織委員会)

項目	概要						
プログラム構成	<p>e-learningとして、以下のような「接遇におけるマナーに関して10個ほどのケーススタディ」をクイズ形式で学習。</p>  <p>※上記の二つの事例は、腕のない方にどのように応対したらよいか、LGBTの方に男女どちらのトイレをご案内したらよいか、といった内容。</p>						
体験コンテンツ	(e-learning以外の情報は不明)						
プログラム検討にあたっての考慮事項	<table border="1"> <tr> <td>対象</td><td>リオ大会の組織委員会がスタッフ・ボランティア</td></tr> <tr> <td>当事者参画</td><td>-</td></tr> <tr> <td>運用方法</td><td>(e-learning)</td></tr> </table>	対象	リオ大会の組織委員会がスタッフ・ボランティア	当事者参画	-	運用方法	(e-learning)
対象	リオ大会の組織委員会がスタッフ・ボランティア						
当事者参画	-						
運用方法	(e-learning)						